

滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 第6回会議 会議概要

日時	令和5年6月5日(木) 13時15分~15時15分
場所	滋賀県庁東館7階大会議室
出席委員	会場：若松委員、寺田委員、明吉委員、樋口委員、北村委員、東谷委員、 小南委員、加藤委員、犬井委員、浦島委員、福井委員、炭谷委員 リモート：井手委員、松浦委員、北川委員 (出席15名)
欠席委員	馬淵委員、原委員、山添委員 (欠席3名)
県出席者	福永教育長、村井教育次長、嬉野教育次長、横井高校教育課長、 小嶋魅力ある高校づくり推進室長、青木保健体育課長、中島競技力向上対策室主幹 小林私学・県立大学振興課長、白井参事、杉原参事、富永主幹、他関係職員
傍聴者等	傍聴：3名 報道：2社

1 開会

- (1) 新委員の委嘱について
事務局より説明があり、承認された。
- (2) 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会第5回会議の概要について
事務局より説明があり、原案のとおり承認された。

2 協議

- (1) 中間報告後の意見聴取結果について
 - ・3月10日の中間報告後に、高等学校および中学校関係者に向けて実施された意見聴取の結果について事務局より説明があり、意見交換が行われた。
 - ・中間報告内容の再確認を行うとともに、第6回会議は推薦制度のあり方についての協議を行うことの確認が行われた。
 - ・現行の特色選抜についての学校関係者への聴取結果を確認しながら、現状の課題の確認や、今後のあり方の方向性に向けて意見交換が行われた。
 - ・自己推薦制度と中学校推薦制度の実施方法や課題および学力検査との関係などについて、他府県の例などを参考にしながら意見交換が行われた。

○主な意見は次のとおり。

【特色選抜について】

- (ア) 現行の特色選抜に代わる、学校の特色を反映するような入試を考えたときに、枠組みをどうするかという問題があると考えている。スクールミッションやスクールポリシーと関連するような要素を持った出願要件の設定なども必要になるかと考える。(高校関係者)
- (イ) 現行の特色選抜については、これまでも課題が指摘されてきているところであり、意見聴取の結果を見ても、見直していく必要があるのではないかと考える。(高校関係者)
- (ウ) 他の中学校関係者と意見交換をしても、特色選抜の継続は難しいのではないかとという意見が代表的なものだった。特色選抜を止めて、推薦選抜に自己推薦制度も入れながらやっていくのが良いのではないかとという意見が多かった。(中学校関係者)
- (エ) 特色を打ち出す選抜を実施することは良いと思うが、高校側の準備や、受験生および中学校にとっての負担が増大するというジレンマが大きいと感じられる。(学識経験者)
- (オ) 中学校時代の活動実績などで、高等学校のスクールポリシーに合うものについてアピールしてもらえないのではないかと。また入学後も活動を継続してもらえないという点で、スクールポリ

シーに合った生徒が獲得できるのではないかと考える。(高校関係者)

- (カ) 現在のスポーツ・文化芸術推薦選抜でも、学校の魅力化や生徒の活動の活性化につながっている例もある。この学校で頑張りたい、という意欲を持った生徒が入学し、その後も頑張っていける制度を探し出せると良いのではないかと考える。(高校関係者)

【自己推薦制度と中学校推薦制度について】

- (ア) 他府県の例で、選抜を一本化した1回実施方式というものが出ているが、文部科学省の話でも、学習時間の少ない生徒が多いという話を聞いている。推薦選抜も含め、全員が学力検査を受けるという方法は、しっかり勉強をして受検に臨み、入学後も学習をしっかり頑張ってもらいたいという中学生へのアピールにもなるのではないかと考える。(高校関係者)
- (イ) 入試で、全員が学力検査を受ける必要があるという方が、学習へのモチベーションを保つという点でも良いのではないかと考える。また、入試のあり方が複雑になるよりは、1回実施方式のシンプルな形で運用していくのは、良いあり方だと感じた。(PTA関係者)
- (ウ) 1回実施方式で、全員が学力検査を受けるとするのは非常に良いと思う。そのうえで、推薦選抜の評価の仕方を工夫するなどし、多様な方法をとるとするのは非常に有効だと考える。日程についての詳細は次回という話だが、日程的にも良いのではないかと考える。(中学校関係者)
- (エ) 受検の目標が「合格」になると、入試後に「やり遂げた感」が出てしまい、学習意欲が向上しないこともあるかもしれない。高校が示しているスクールポリシーや入学後の活動に対して、目的をもって受検に臨めると良いと思う。1回実施方式で、例えば推薦の独自の検査のようなものも評価対象になるというのであれば、一つの方法だと思える。(中学校関係者)
- (オ) 自己推薦制度と中学校の推薦制度の両方が導入され、多様な生徒の思いや活動が反映され、生徒が主体的に推薦選抜に向き合えると良いと考える。(中学校関係者)
- (カ) 意見聴取結果を見ていると、高校が、自己推薦と中学校推薦について選択的導入するという方式が良いように感じる。(市町教育委員会関係者)
- (キ) 推薦選抜、一般選抜に関わらず、学力をしっかり測ることは望ましい。自己推薦制度の場合、学外での活動実績をどう評価するか、エビデンスをどうするかということが重要である。(学識経験者)
- (ク) 私学では自己推薦制度を多く導入しているが、エビデンスの確認は必要。ただ、負担は増大する。また、自己推薦と中学校推薦との線引きは重要である。(私立学校関係者)

(2) 今後の予定について

次の3点が確認された。

- ①第7回会議で日程に係る事項についての協議を行うこと。
- ②第8回会議で最終報告と新入学者選抜制度の案について協議を行うこと。
- ③令和5年12月に、最終報告とともに新入学者選抜制度を公表すること。

(3) その他

特になし。

3 閉会

- ・閉会にあたり、福永教育長から挨拶があった。
- ・次回、第7回協議会の日程については、令和5年8月に開催する方向で調整し、委員には改めて連絡することとした。